

大山口小学校区まちづくり協議会第10回設立準備会 議事録

■実施日時 令和2年10月11日（日） 午後2時30分から5時まで

■場所 西白井コミュニティプラザ 会議室1～3

■出席者

- ・準備会委員 成田氏、豊田氏、加藤（秀）氏、野水氏、寄本氏、福原氏、山下氏、石本氏、中谷氏、長沼氏、岩田氏、洞内氏、上村氏、相川氏、岡本氏、加藤（雅）氏 16名
- ・まちづくり支援チーム（高山、金井、戸田、松田、高橋）
- ・市民活動支援課（岡田部長、松岡課長、中原主査補、高橋）

■議題

1. 今後の設立準備会の進め方について
 - ①これまでのプロセスについて
 - ②まちづくり計画作成に向けたこれからの検討のゴール・手順・ポイント
 - ③まちづくり計画策定の検討に際し必要なこと
 - (1) 取り組み項目の絞り込み
 - (2) コロナ禍を想定した取り組み項目の検討・選定
 - ④取り組み項目絞り込みの検討方法について
 - ⑤取り組み項目絞り込みの会議について

■結論

- ①これまでのプロセスについて、事務局より説明を行った。
- ②まちづくり計画策定に向けたこれからの検討のゴール・手順・ポイントについて、事務局より説明を行った。
- ③まちづくり計画策定の検討に際し必要なことについて事務局より説明後、取り組み項目の絞り込み、コロナ禍を想定した取り組み項目の検討・選定の具体的な方法について議論を行ったが、この場では決定しなかった。
- ④第1段階の検討方法を事務局より提案し議論を行ったが、検討方法はこの場では決定しなかった。
- ⑤取り組み項目の絞り込みのための会議の方法について事務局より提案し議論を行ったが、この場では決定しなかった。

■次の準備会の日程と議題

日時 令和2年11月1日（日）午後2時から4時

議題 未定

■議事録（主な発言など要点のみを記載する）

1. 今後の設立準備会の進め方について
 - ①これまでのプロセスについて
○これまでのプロセスについて、事務局より説明を行った。
 - ②まちづくり計画作成に向けたこれからの検討のゴール・手順・ポイント
○まちづくり計画策定に向けたこれからの検討のゴール・手順・ポイントについて、事務局より説明を行った。
 - ③まちづくり計画策定の検討に際し必要なこと
 - (1) 取り組み項目の絞り込み
 - (2) コロナ禍を想定した取り組み項目の検討・選定
○まちづくり計画策定の検討に際し必要なことについて事務局より説明後、取り組み項目の絞り込み、コロナ禍を想定した取り組み項目の検討・選定の具体的な方法について議論を行ったが、この場では決定しなかった。
<質疑等>
Q：まちづくり計画を3か年計画とすることはいつ決定したのか。
A：5年・10年と長期の計画になると見通しが難しいことから、3年が適当と考え市で決定した。
Q：3か年の期間はいつか。
A：令和3・4・5年度の3年間。
Q：資料4の「福祉・健康づくり」の項目を見るとスポーツ以外の取り組みが塗りつぶされている。日常支援等の取り組みはコロナ禍においても重要な取り組みではないか。
A：重要性・実現性の高い16項目以外は実施しないということではなく、16項目は優先的に先行しその他の取り組みも行っていくことを想定している。
Q：16項目をすでに実施している団体とどうタイアップしていくのか。
A：コロナの影響も加味して検討していく必要がある。
Q：資料5のNo.16「青色パトロール」の活動は、学校のほか地域でも行っているが。
A：資料5には、あくまでも準備会の構成団体をメインに記載している。
<主な意見等>
 - ・団体ヒアリングを受けたが、自治会の活動が漏れているのでは。
 - ・市とのタイアップ、他小学校区まち協との兼ね合いをどのようにしていくかがポイント。
 - ・地区住民を巻き込んでいけるもの、これならやれるといものを検討・発信していく必要がある。
 - ・短期的に取り組めるかという視点も大切で、必ずしも重要性の高い項目を実施する必要はないと思う。
 - ・自治会の意見を吸い上げていくことが必要。自治会活動の動向を知ることはまち協にとっても重要になる。
・自治会では予算を計上して活動しているため、自治会がまち協に参画するのはどうかと思う

自治会では予算を計上して活動しているため、自治会が中心に参加するものはこの場合。

- ・1年交代の自治会もあることから、まち協への参画は難しいのでは。
- ・自治連合会として準備会に参加しているため、各自治会の動向等については概ねカバーできると思う。自治連合会として、7つの自治会の意見をまとめて発信していく。そのため、各自治会の参加までは必要ないと思う。

④取り組み項目絞り込みの検討方法について

○第1段階の検討方法を事務局より提案し議論を行ったが、検討方法はこの場では決定しなかった。
<質疑等>

Q：令和3年から協議会を設立し、活動していくのか。

A：年度当初の設立は難しい。今後もコロナの影響による延期はやむを得ないと考えている。

Q：コロナの影響で進められないとなると、いつまでも進まないのでは。

A：3密を避けるなどの会議ができる環境を整えながら進めていく予定。

Q：16項目にこだわらず取り組み項目はどのように決めていくのか。

A：まずは項目を選定し、その後具体的な予算や実施時期・事業名等を決めていく方向で事務局としては考えている。

Q：16項目についてはすべて実施する必要はないと思う。先に16項目を決めるやり方はもっていないのでは。

A：16項目については、あくまでも「有力候補」という認識で、点数が高いから実施するという訳ではない。計画が始まってからも随時見直しできるようにしたい。

Q：取り組み項目に入っているごみゼロ運動はすでに実施しているが。

A：取り組み項目は皆で決めた事項のため、表現を変えるなど前向きに考えていきたい。

Q：市で行っている「認知症予防講座」等は、広報力が足りない印象を受けた。59項目すべてを検討してはどうか。

A：59の取り組み項目は市ではなく、地域で行っていく活動として提案されたもの。

<主な意見等>

・16項目については優先的に取り組むこととし、いつまでに協議会を設立するかを決定したうえで動いた方が良いと思う。

⑤取り組み項目絞り込みの会議について

○取り組み項目の絞り込みのための会議の方法について事務局より提案し議論を行ったが、この場では決定しなかった。

<質疑等>

Q：16項目における8分野のテーマのバランスについてはどう考えているか。

A：16項目にかかわらず、分野ごとに大切な取り組みについて話し合っていく。

Q：グループごとに分かれ、各グループが別々のテーマを検討し、最後に全体で共有して決定する方法はどうか。

A：第三小学校区準備会ではこの方式で行っている。グループは検討したいテーマ別に手挙げ方式で編成している。

Q：グループの意見集約はどのように行うか。

A：グループでの検討結果を全体で共有・フィードバックすることが考えられる。集約に関しては意見交換が必要になってくる。

Q：各グループがすべてのテーマを検討することとし、前回会議の議事録をもとに別のグループで検討するのはどうか。

A：議事録のみでは前回会議の内容が十分に伝わらないと思われる。

Q：第三小と大山口小の進め方では協議会の設立時期は変わるか。

A：設立時期の目安を提示することは可能。現時点では、会議が順調に進んだ場合令和3年6月に設立予定だが、変更の必要が生じた場合は再検討する。

※次回準備会の日時・会場

日時：令和2年11月1日（日）午後2時から4時

会場：西白井コミュニティプラザ会議室1～3